

# 街に行く

第77回 日本橋 Nihonbashi

## 変化と調和

かつて日本で最も栄えたお江戸日本橋は、東海道の出発点です。日本全国の街を訪ねる本連載は、ここから始めるべきだったかも知れません。通巻200号の節目を迎えた本誌の連載「街に行く」はこのたび77回目のゼロ目。縁起よい記念回に新しい起点としてこの街を取り上げたいと思います。

日本橋の街はたえず変化しています。近年では老舗デパートの買物客で賑わう街から、超高層ビルが立ち並ぶビジネス街へ変わろうとしています。大きなシフトチェンジですが、考えてみれば東京駅に至近で丸の内・大手町にも近く、企業が拠点を設けるにはピッタリの場所でした。

商業地からビジネス街へ様子は変わっても、かつて庶民で賑わった東京下町の心はまだ残っているようです。江戸時代この地で創業した店は、姿形は変わっていますが今も変わらぬ場所で営業しています。変化しながらも昔と上手に調和していますね。

街が長く栄え続けるためには変化が不可欠です。街として担うべき役目は何かを見つけ、時代の新しい求めに応じて変化する必要があります。旧き良き時代に浸っていると大抵だめになります。地方の街は、ほとんどがその憂き目に遭っています。当面の役目が見つかった街も将来までは約束されません。いま重宝されたとしても、賞味期限が切れれば、存在価値がなくなります。これは地政学的に人口が流入しやすい首都圏の街であっても同じです。

いまの日本橋にはかつて問屋さんが軒を連ねた商業地としての役割はあり



日本橋の現在、たもとには碑があり、道の起点だったことを教えてくれる



ません。そのまま変わらずいけば「高齢な人が集まる街」になっていたでしょう。大人な落ち着きが薫る反面、本来の日本橋、すなわち、活気に満ち溢れた江戸っ子の本拠地とはかけ離れた存在となっていたでしょう。

街が変化する傾向・方向性をみると「多様化」が思い浮かびます。日本橋もそうした方向性にあるように思います。人や企業が多様化してはいる今、あらゆる世代に受け入れられる街をつくるのは、生き残り策としてはよい選択かもしれません。ですが、あらゆるものを受け入れる奥行きが得られるぶん、街の特徴は薄れるかもしれません。特徴は薄いが発展する街を選ぶか、気分がホッとするが衰退する街を選ぶのか、

トレード・オフというわけです。大人のビジネス街へと変化する日本橋の昔を想像すると、威勢の良い掛け声が聞こえてきそうです。この橋もさぞや人通りが凄かったのでしょうか。

**南 一弘**



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アライジショーンズを経て、2001年エース・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。